



たくましい村松っ子

11月の生活目標：あとしまつ名人になろう

令和7年10月31日 第11号
文責：校長 日高 文博

個人内評価

ビヨンチャン

2018年の平昌オリンピックのことです。女子フィギュアスケート代表の宮原知子選手は、ハイレベルな戦いを繰り広げましたが、結果は4位でした。その演技後のインタビューのシーンに強い印象をもったのです。

記者は、宮原選手へのインタビューの第一声を「残念でしたね。惜しくもメダルに届きませんでしたが、お気持ちを聞かせてください。」としました。

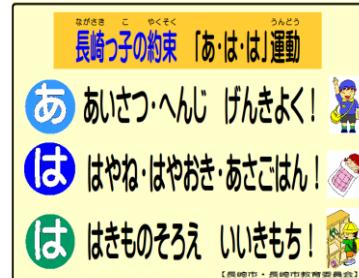
宮原選手は表情を曇らせ、「そうですね…」と力ない声でインタビューに答えていました。その内容もメダルを取れずに申し訳ないという反省の弁が中心です。

その後、民放で松岡修造氏が宮原選手にインタビューをしました。あの熱血キャラクターの松岡氏です。その第一声は「すごかったですね。パーソナルベストですよ。」でした。宮原選手の結果は、順位としては4位でしたが、宮原選手個人の成績で見していくとパーソナルベスト、自己最高得点をマークしていたのです。松岡氏のインタビューを受けた宮原選手は、パッと表情を明るくし、けがをしてからも諦めずに練習に励んできた過程を自己評価し、今回の結果に対して、関係者に感謝の気持ちを表していました。

宮原選手の結果は同じ結果であるのに、声のかけ方で結果を不十分なものと捉えさせるのか、成果として捉えさせるのか、全く違った印象を与えていました。

この印象の違いは、宮原選手を相対評価した視点と個人内評価した視点の違いでもあります。周囲と比較してその人物を見ていくことはもちろん大切な評価の在り方ですが、どうも私たちはそれに偏っているように思います。個人内評価は、その人物にスポットが当たった味方です。周囲との違いは評価の視点に含まれません。だから、結果が周囲によってマイナスに評価されたり、プラスに評価されたりすることもありません。

私たちの子どもを評価する視点はどうでしょうか？偏ることなく、その子どもにスポットを当てて評価できているでしょうか？見つめ直してみたいと思います。



第2回避難訓練

10月24日（金）に第2回避難訓練を行いました。今回は、休み時間に予告なしで実施しました。多少、あわてたり、話し声が聞こえたりと反省する場面もありましたが、4分間で全校児童が運動場にスムーズに避難することができました。



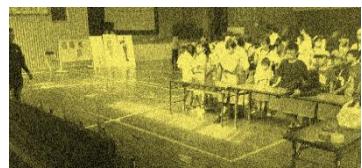
全体では、①あわてないこと ②放送をよく聞くこと を確認し、自分の命は自分で守る「本物の力」を身に付けることについて話をしました。

村松っ子感謝祭

10月19日（日）は、PTA主催の「村松っ子感謝祭」が開催されました。PTAの保護者の皆様、おやじの会の皆様には、計画段階から当日の運営まで大変お世話になりました。本校職員も可能な限りのお手伝いをさせていただいたところです。また協賛として、まちづくり協議会、子どもを守るネットワーク、村松小学校区青少年育成協議会にも関わっていただきました。ありがとうございました。

当日は、大勢の子どもたちが集まり、西海太鼓と明誠高校プラスバンド部の演奏、ゲームコーナー、村小アルクトースト、屋台コーナーなど盛り沢山の内容にみんな楽しめていたようでした。

大人と子どもが笑顔で関わることのできる貴重な時間を過ごせたことが何よりでした。



6年生修学旅行

10月28日～29日の1泊2日で6年生が熊本県へ修学旅行に出かけました。天候にも恵まれ、すべての活動を予定どおり実施できました。普段の学校での学びを生かして、本物に触れることで多くのことを学ぶことができました。次は、修学旅行での学びを学校での暮らしや自分の生き方に生かしていくよう指導していきます。



【熊本城】



【エルパーティオ牧場】



【ホテル】



【三井グリーンランド】

※画像は個人が特定されないように処理しています。